

今朝のTVの視聴率は如何程であったのだろうか。不振の続くトリノ五輪で、日本初のメダル、フィギア界初の金メダル(アジア人としても初)という快挙である。荒川静香：の幾多の苦難を乗り越えての銀盤の女王誕生である。日本の舞姫に、心からなる拍手をおくり、喝采したい。それにしても、村主も惜しかった。2回も転倒してもメダリストになれるというのは何となく釈然としない。素人には主観の入り込む余地のない競技の方が納得しやすい。表彰式で君が代を口ずさんでいたが、残念ながら他には見られぬ美しい光景であったし、表彰台に近づき銀・銅の選手と抱擁した後にちゃんと台の後ろに回って壇に上るなど当たり前ではあるが、意外に出来ない選手が多い中で、彼女は大した者である。一流選手はかくなければならぬ。脱帽することすらしないメダリストが居たことを思うと、品格の差を感じる。

さて、今年が多忙さもようやく終息しつつあるかと思っていたが、さにあらずの状況が続いた次第である。従って、「折々の記」を書く時間がなく、10 日以上も間を空けてしまった。

この間、色々あったが、幾つかを思いつくままに2題を！



1 往生際の悪さ！

ライブドアの堀江氏逮捕(1/24)、そして再逮捕(2/23)と状況は推移しているが、この間、彼は一貫して未だに己の罪状を認めないという。信念の人というべきか、頑迷固陋と言うべきか。彼ほど知的で理解力のある人間が、己の犯した罪を全く認識していないと言うのは解せない。ひょっとすると彼は自分が罪を犯しているという認識が本当にないのではないかと思ってしまう。

何と言う往生際の悪さだろうか。我々が育った社会では、“過ちて改たむるに憚ること勿れ”とか、“間違ったときには潔くそれを認めるべし”との暗黙の戒律があった筈である。何時しか日本社会の中でその様な道徳律と言うか、人間の生き様に関する認識が薄れてしまったのだろう。嘆かわしいことである。最も、このことはホリエモンに始まったことではない。かつて、何回となく繰り返された政治家の疑惑への対処が破廉恥極まりなく、往生際の悪いものだったが故に、それが国内に蔓延したのではなかろうか。若者をすら蝕んでいるとすれば我が国の将来が危ぶまれる。

往生際の悪いと言えば、同じくホリエモンメールで世間を騒がせた永田某代議士もそうである。明らかに、総理の言うガセネタを掴まされて踊ったピエロになった。辞意を洩らしながらも、慰留されるや病院に駆け込むなど(最も本人の意思かどうかは不明だが・・)、往生際の悪さはホリエモンと同じだ。『自分が軽率だった、あのメールは偽造メールで、申し訳ありませんでした』と潔く国民の前に頭を下げたほうがよっぽど格好良いし、株も上がったろうに。

先日、数学者の藤原正彦氏のベストセラー『国家の品格』を読んだが、日本の良き道徳律と言うかその様なものが失われつつあるのかも知れない。悲しいけれども、藤原氏

の所論を認めない訳には行くまい。

2 竹島問題にどう対応すべきか

2月22日は、島根県が定めた初めての「竹島の日」である。当日の新聞各社の社説を読んで面白いことに気づいた。竹島問題を取り上げたのは、読売と産経のみで、朝日、毎日、日経は共に触れていない。日経は止むを得ないとしても、朝日や毎日の体質を如実に表しているのではないか。

翌日は全社ともホリエモンメール疑惑を取り上げていると言うのに、面白い現象である。

小生が帯広時代に幹部教育用に書いた「独白」の記事がある筈だが、残念ながら見つからないので、産経及び読売の社説から竹島が日本領土であることに関する記述を引用する。

『竹島は島根県隠岐島の北西約百五十七キロに位置し、二島（東島と西島）と数十の岩礁から成る。江戸時代から日本の漁民が幕府から拝領し、実効支配してきた。付近は、サザエ、アワビなどの宝庫として知られる。

明治三十八（一九〇五）年、竹島を島根県の一部とする閣議決定が行われ、同県が竹島を所管する告示を出した日が二月二十二日だ。竹島は歴史的にも法的にも、まぎれもない日本領土なのである。

戦後、独立した韓国の李承晩政権は竹島を韓国領とする「李ライン」を一方的に設定した。これに対し、日本は何度も抗議し、国際司法裁判所に提訴することを提案したが、韓国はこれを拒否し、不法占拠を続けている。』（産経新聞）

「竹島は江戸時代から漁労地として日本人が利用していた。1905年に島根県に編入された。戦後の日本の領土を規定したサンフランシスコ講和条約でも、日本の領土とされている。

李承晩・韓国大統領（当時）はサンフランシスコ条約発効直前の52年1月、一方的に李承晩ラインを設定、竹島（韓国名・独島）領有を宣言した。その後、警備隊を駐留させ、占拠を続けている。

昨年3月の「竹島の日」条例制定時には韓国側が強く反発し、自治体間の交流が中断するなど波紋を広げた。』（読売新聞）である。

両社とも政府の及び腰を批判しているが、全く同意である。韓国と親善友好を維持することは重要であるが、だからといって日本のみが一方的に譲歩することがあってはならない。国際司法裁判所への提訴に、彼の国が同意していないのは敗訴が目に見えるからだろう。政府は広く国民を啓発する努力を行うべきだ。何故に日本は中国や韓国にかくも弱いのか、変な贖罪意識があるのか、どうも解らない。